

ドイツの冬は暗い。毎日どんよりした空がのしかかります。太陽が見られないというのは想像していた以上につらく、留学中何度も日本に帰りたくありません。冬の日照が少ないドイツでは、夏に長い休暇をとり「日光浴」をする文化が昔からあります。

実際、日光を浴びないとビタミンDが欠乏し、病気にもかかりやすくなるそうです。今でもドイツ人は休暇に出かけるときに「日光を貯めに行く」と言ったりします。彼らにとって夏の

# きょうの 発 言

休暇は体調を整えるための大切な時間なのです。

一カ月の連続休暇を取る人もたくさんいます。そんな長い休暇を「家族で安く過ごしたい」という要望にこたえたのが「農家民宿」。農家を拠点にハイキングやサイクリングなどをし、身近な自然を満喫する。日本でもよく紹介される「グリ

## 日本型の農村ツーリズムとは

大津 耕太（農業）

「インツーリズム」と呼ばれる休暇の過ごし方です。

最近日本でも連休が増えて長期休暇が取りやすい制度も整えられています。でも実際には有給休暇すら取りづらい雰囲気があるのも事実のようです。では、長い休みがないと田舎での休暇は楽しめないのでしょうか。都会で働く友人は、金曜か月曜を一日だけ休んで阿蘇に来ます。三泊四日ですが、けっこうのんびりしている様子。農作業も喜んで手伝ってくれます。

日本にも伝統的な滞在型のツーリズムがあります。「湯治」や「海の家」です。特に「湯治」は心身を癒やすため、温泉で自炊しながら長期滞在します。ヨーロッパ人が体調を整えるために休暇を取り始めたことと、同じ発想です。

欧米式の「グリーンツーリズム」をまねするより、日本に昔からある形を見直し、それを山間地域でも生かすことができれば、日本の農村ツーリズムが生まれるのではないのでしょうか。